

森山安英の絵画

アルミナ頌からヒロシマシリーズまで

Paintings of Moriyama Yasuhide: From *Ode to Alumina* to the Hiroshima Series

会期 2022年6月9日|木|–8月21日|日|

会場 近現代美術室 B

「いったい僕にとって絵とは何なのか」

森山安英（1936年福岡県八幡市〔現・福岡県北九州市八幡東区〕生まれ）は、1968年結成の前衛美術グループ〈集団蜘蛛〉のメンバーとして、パフォーマンスなどによる「過激な自己破壊」とも呼べる反芸術運動を展開しました。過激な活動が一つの区切りを迎えた1973年、森山は「もう一度、絵描きに帰り、絵を描く」と述べたといえます。

長い沈黙と模索の期間を経て、1987年頃、森山は絵画シリーズ《アルミナ頌》に本格的に着手します。「いったい僕にとって絵とは何なのか」と問い、「何をどう描くかではなく、そのこと自体がテーマになるというメタ絵画みたいなもの」を模索しながらの絵画制作は、銀色絵具を使用した《光ノ表面トシテノ銀色》《非在のオブジェ》《レンズの彼岸》ほか、物質や現象、写真、光に関する言葉をタイトルに用いたシリーズを通して続けられました。《非在のオブジェ》からは、脳内のスクリーンに浮かんだイメージを意識の中でカメラに写し取り、それを絵画にしようとしたとも語っています。絵筆を使用せず自然現象に委ねた禁欲的な制作は、「芸術表現の全否定、全根拠を疑ってかかること」を試み続けた「〈集団蜘蛛〉の運動の総括」でもありました。

《レンズの彼岸》で銀色の絵画を終えた森山は、一度は「もう絵描きは終わり」と考えたと言います。しかし自身の絵画を振り返るなかで、まだやり残したことがある、可能性に挑戦したいと、色や形そして遠近法など、絵画の主たる要素を取り入れた「普通の絵」を志向することになります。《光ノ遠近法トシテノ連作》《水辺にて》《幸福の容器》のシリーズでは、トンネルや地下水道といった具体的なイメージや、死を意識した自身の体験や東日本大震災の報道で目にしたシーンがモチーフになるなど、新たな展開が見られます。

ヒロシマシリーズ「ザ・模写」

2017年、絵画の奥行を探求していた《窓》のシリーズに突如、写真家・石内都が撮影した広島平和祈念資料館の被爆資料である衣服のイメージが引用されました。以後、石内都の写真集『ひろしま』（集英社、2008年）、『Fromひろしま』（求龍堂、2014年）の写真を模写した絵画シリーズは、「ヒロシマシリーズ『ザ・模写』」と名付けられ、現在も取り組まれています。

写真集『ひろしま』を初めて手に取った時、森山は「まだ絵が描けるかもしれない」、「これを描かねばならない」と思ったと言います。絵とは何かを問いながら続けられてきた森山の絵画制作が、石内都の撮影した被爆者の遺品の写真の模写に至ったことには2つの動機を指摘できます。幼少期に八幡で空襲に遭い、山口県に疎開中に原爆投下を知った画家にとって「ヒロシマ」は他人事ではない、常に頭の片隅にある問題でした。石内の写真を模写することで、森山は「ヒロシマ」の主題によりやく取り組むことができたのです。また、「イメージを写し取る」という行為自体は、銀色絵具を使用していた頃から意識されていたことでした。遡れば〈集団蜘蛛〉の時代から、森山は写真の模写を行ってもしました（※P.4略年譜参照）。

本シリーズにおいては、石内の撮った写真を油絵具と絵筆を用いてできる限り忠実に表すこと、「模写」であることが何より重視されています。しかしながら画布に否応なくあらわれ出る森山の眼、手、思考の跡が、本シリーズを森山の「絵画」にしているともいえるでしょう。

※執筆にあたり北九州市立美術館で2018年に開催された展覧会の図録『森山安英 解体と再生』（小松健一郎著、grambooks、2018年）所収のテキスト、森山安英インタビュー、森山安英美術講演会「光ノ表面トシテノ銀色」を参照し、本展担当者によるインタビュー（2022年4月21日）も行いました。
[学芸員 正路佐知子]



福岡市美術館
FUKUOKA
ART
MUSEUM

〒810-0051
福岡市中央区大濠公園1-6
TEL 092-714-6051（代表）
FAX 092-714-6071
www.fukuoka-art-museum.jp

森山安英 略年譜

本略年譜は森山安英の絵画活動に関する出来事と展覧会歴で構成する。作成にあたり『森山安英 解体と再生』（2018年、北九州市立美術館）を参照した。

1936	11月13日、八幡市清田町（現・北九州市八幡東区清田）に生まれる。10代より、絵を描くことが好きであったという。	1985	3月「森山安英 油絵展」（九州画材ギャラリー翔/北九州市） 絵画制作を本格的に再開。
1955	4月、佐賀大学教育学部特別教科（美術・工芸）教員養成課程（現・文化教育学部美術・工芸課程）に入学。この年以降、学生仲間とグループ展を佐賀商工会館ビルなどで複数回開催。	1987	3月「森山安英個展 “アルミナ頌”」（画廊リブ/北九州市）
1957	大学を除籍となり、八幡製鉄所内の下請け会社・木下商店の工場で働き始める。	1988	6月「森山安英個展 アルミナ頌」（天画廊/福岡市）
1958	廃品を用いたオブジェを制作。同年木下商店退職。	1989	10月「森山安英展」（天画廊/福岡市）
1960	この年まで久保田清美らと〈グループげおのんぬーみゐ〉を結成し、以後数年間にわたって石橋美術館や佐賀商工会館などでグループ展を開催。 6月「第1回全九州アンデパンダン展」（八幡市美術工芸館）に《作品》出品。	1991	12月「森山安英展」（画廊リブ/北九州市） 3月「森山安英展」（村松画廊/東京） 9月「第12回国際インパクト・アート・フェスティバル '91」（京都市美術館）招待出品 9月「森山安英個展 スペース・イン・LIVE Part11」（画廊リブ/北九州市）
1963	足立山から小倉区三萩野（現・小倉北区三萩野）の倉庫を住居兼アトリエとし、「標本オブジェ」を制作。	1992	9月「森山安英個展 スペース・イン・LIVE Part15」（画廊リブ/北九州市）
1967	戸畑区千防で春元茂人と同居しながら絵画教室を営む。	1993	9月「光の表面としての銀色 森山安英展 1993」（福岡市美術館 特別展示室B） 9月「森山安英個展 スペース・イン・LIVE Part19」（画廊リブ/北九州市）
1968	2月「第2回九州・現代美術の動向展」（福岡県文化会館）に石膏の額縁を出品。4月〈グループZELLE（ツェル）〉結成し、翌月「グループ連合による芸術の可能性展」に参加。7月頃〈グループZELLE〉からメンバーを変え〈集団蜘蛛〉と改称。同月「蜘蛛集団のアート・フェアー（現代美術の即売会）」（めがねのセコール2階/北九州市）にボールペンによるボルノ写真の模写を出品。9月「第2回企画展 集団蜘蛛蜂起」展（北九州市立八幡美術館）開催。12月小倉駅前広場、村崎川、小倉区役所周辺で「NO ARTフェスティバル」開催。	1994	3月「「光の表面としての銀色」森山安英展」（村松画廊/東京） 9月「森山安英個展 スペース・イン・LIVE Part25」（画廊リブ/北九州市）
1969	1月「蜘蛛初詣イベント」（八坂神社/北九州市）開催。2月「第3回九州・現代美術の動向展」（福岡県文化会館）にメンバーの全裸シルクスクリーン版画、菊畑茂久馬の版画に基づく「盗作版画」を出品。同月「第13回京都アンデパンダン」（京都市美術館）に〈集団蜘蛛〉で《芸術における精神強姦的及び犯罪的報告》の題名で全裸シルクスクリーン版画を出品。4月「万博破壊九州大会キャンペーン」でハプニングをこなう。5月「万博破壊九州大会 アングラ絵がとハプニングの夜」（戸畑文化ホール／北九州市）に全裸シルクスクリーン版画や《NO ART NO35》、ボルノ写真の拡大模写などを展示。ハプニングも行う。7月「畸形三派狂乱大集会」（小倉労働会館／北九州市）を開催。	1997	12月「森山安英資料による「集団蜘蛛」の軌跡展」（福岡市美術館 小作品室）
1970	2月天神交差点で性交ハプニングを試みる。7月伝習館高校三教師懲戒処分反対デモ中に、新開一愛らと屋上で下半身を露出するパフォーマンスを行う。11月「伝習館救援会結成大会」でデモ隊に合流後、男女の性器を描いたムシ口旗が倒れかかるのを支えた瞬間、逮捕される。12月「公然わいせつ罪」「わいせつ図画公然陳列罪」罰金3万円の略式命令が下り釈放。略式命令へ不服を申し立てる。裁判終了まで多数の会合を開き、機関誌を発行。	2002	1月「海鳥社創業17周年記念 森山安英展」（福岡市美術館 特別展示室B、ギャラリーとわーる）
1973	第17回公判で「公然わいせつ罪」「わいせつ図画公然陳列罪」罰金3万円が宣告される。	2004	4月「春の常設展 テーマ・コーナー 森山安英の絵画」（北九州市立美術館本館 常設展示室） 6月「北九州美術 1904-2004」（北九州市立美術館）出品。 11月「美術とこころの旅」（北九州市立美術館）出品。
		2005	4月「森山安英展 光ノ表面トシテノ銀色」（GALLERY SOAP/北九州市）
		2008	3月「お帰り集団蜘蛛」（GALLERY SOAP/北九州市）
		2010	11月「森山安英 個展」（GALLERY SOAP/北九州市）
		2013	1月「幸福の容器／森山安英 個展」（GALLERY SOAP/北九州市） 2月「北九州をめぐるアート展 Vol.5」（北九州市立美術館本館 アネックス市民ギャラリー）出品。 10月「森山安英展 第一章 レンズの彼岸」（共星の里 黒川INN美術館/朝倉市）
		2015	6月「「非在のオブジェ」森山安英展」（共星の里 黒川INN美術館/朝倉市）
		2017	5月「森山安英（集団蜘蛛）展覧会」（GALLERY SOAP/北九州市）
		2018	5月「森山安英 解体と再生」（北九州市立美術館本館 企画展示室）
		2021	4月「森山安英「光ノ表面トシテノ銀色」展」（銀座 蔦屋書店GINZA ATRIUM/東京） 5月「ヒロシマシリーズ「ザ・模写」森山安英個展」（GALLERY SOAP/北九州市）
		2022	6月「森山安英の絵画 アルミナ頌からヒロシマシリーズまで」（福岡市美術館 近現代美術室B）

出品リスト	
※記載は、題名（日・英）、制作年、技法または材質（日・英）、画面寸法（縦×横cm）、当館分類番号である。 ※本リストは制作年順で作成しているため、展示順とは一致しない。	
1 アルミナ頌 05	7 レンズの彼岸 15
Ode to Alumina 05 1987-89 油彩、樹脂・画布 oil and resin on canvas 162.0×130.3 1-A-738 2021年 個人寄贈	Nirvana of the Lens 15 1999 油彩、樹脂・画布 oil and resin on canvas 130.3×162.0 1-A-735 2020年 個人寄贈
2 アルミナ頌 18-1	8 レンズの彼岸 16
Ode to Alumina 18-1 1990頃 油彩、樹脂・画布 oil and resin on canvas 194.0×162.0 1-A-739 2021年 個人寄贈	Nirvana of the Lens 16 1999 油彩・画布 oil on canvas 162.3×194.3 1-A-553 2004年 個人寄贈
3 光ノ表面トシテノ銀色 17-1	9 光ノ遠近法ニヨル連作 26-3
Silver as Surface of Light 17-1 1993 油彩・画布 oil on canvas 194.3×130.2 1-A-552	Optical Perspective Series 26-3 2004 油彩、樹脂・画布 oil and resin on canvas 130.3×194 1-A-741 2021年 個人寄贈
4 非在のオブジェ 27	10 光ノ遠近法ニヨル連作 26-4
Object in Nonexistence 27 1997 油彩、樹脂、アルミ粉末・画布 oil, resin, aluminum powder on canvas 145.5×112.5 1-A-740 2021年 個人寄贈	Optical Perspective Series 26-4 2004 油彩、樹脂・画布 oil and resin on canvas 130.3×194 1-A-742 2021年 個人寄贈
5 レンズの彼岸 13	11 水辺にて 08
Nirvana of the Lens 13 1999 油彩、樹脂・画布 oil and resin on canvas 130.3×162.0 1-A-733 2020年 個人寄贈	At the Water's Edge 08 2010 油彩、樹脂、パステル・板 oil, resin, pastel on board 91.5×183 1-A-743 2021年 個人寄贈
6 レンズの彼岸 14	12 幸福の容器 03
Nirvana of the Lens 14 1999 油彩、樹脂、アルミ粉末・画布 oil and resin, aluminum powder on canvas 130.5×162.2 1-A-734 2020年 個人寄贈	Vessel of Happiness 03 2011 油彩、樹脂、パステル・板 oil, resin, pastel on board 90.×270.0 1-A-744 2021年 個人寄贈

13 窓-51	14 石内都写真集『ひろしま』による模写 I	15 石内都写真集『ひろしま』による模写 II
Window-51 2017-2021 油彩、マスキングテープ・画布 oil, masking tape on canvas 194.0×112.0 1-A-745 2021年 個人寄贈	Reproduction I from the Photobook <i>ひろしま/hiroshima</i> by Ishiuchi Miyako 2020 油彩、鉛筆、糸、トレーシングペーパー・画布 oil, pencil, thread, tracing paper on canvas 33.3×22.2 1-A-746 2021年 個人寄贈	Reproduction II from the Photobook <i>ひろしま/hiroshima</i> by Ishiuchi Miyako 2019-2020 油彩、鉛筆・画布 oil and pencil on canvas 72.7×50.0 1-A-747 2021年 個人寄贈
16 石内都写真集『ひろしま』による模写 V	17 石内都写真集『Fromひろしま』による模写 IV	18 石内都写真集『Fromひろしま』による模写 VI
Reproduction V from the Photobook <i>ひろしま/hiroshima</i> by Ishiuchi Miyako 2020 油彩、鉛筆、糸・画布 oil, pencil, thread on canvas 100.0×65.2 1-A-749 2021年 個人寄贈	Reproduction IV from the Photobook <i>From ひろしま/hiroshima</i> by Ishiuchi Miyako 2020 油彩、鉛筆、糸・画布 oil, pencil, thread on canvas 100.0×65.2 1-A-749 2021年 個人寄贈	Reproduction VI from the Photobook <i>From ひろしま/hiroshima</i> by Ishiuchi Miyako 2021 油彩、鉛筆、糸・画布 oil, pencil, thread on canvas 100.0×72.7 1-A-750 2021年 個人寄贈

※以下、すべて作家蔵、福岡市美術館寄託	
19 石内都写真集『Fromひろしま』による模写 VII	20 石内都写真集『Fromひろしま』による模写 VIII
Reproduction VII from the Photobook <i>From ひろしま/hiroshima</i> by Ishiuchi Miyako 2021 油彩、糸・画布 oil, thread on canvas 41.0×27.3	Reproduction VIII from the Photobook <i>From ひろしま/hiroshima</i> by Ishiuchi Miyako 2021 油彩、糸・画布 oil, thread on canvas 33.3×22.0
21 石内都写真集『Fromひろしま』による模写 IX	22 石内都写真集『Fromひろしま』による模写 X
Reproduction IX from the Photobook <i>From ひろしま/hiroshima</i> by Ishiuchi Miyako 2021 油彩、糸・画布 oil, thread on canvas 27.3×41.0	Reproduction X from the Photobook <i>From ひろしま/hiroshima</i> by Ishiuchi Miyako 2022 油彩、糸・画布 oil, thread on canvas 91.0×60.6
23 石内都写真集『Fromひろしま』による模写 XI	24 石内都写真集『Fromひろしま』による模写 XII
Reproduction XI from the Photobook <i>From ひろしま/hiroshima</i> by Ishiuchi Miyako 2022 油彩・画布 oil on canvas 60.6×91.0	Reproduction XII from the Photobook <i>From ひろしま/hiroshima</i> by Ishiuchi Miyako 2022 油彩・画布 oil on canvas 22.0×33.3
25 石内都写真集『Fromひろしま』による模写 XIII	
Reproduction XIII from the Photobook <i>From ひろしま/hiroshima</i> by Ishiuchi Miyako 2022 油彩・画布 oil on canvas 41.0×31.8	